



新潟教区報 第133号  
 2022 (令和4) 年 11月 30日 発行  
 編集/浄土真宗本願寺派 「御同朋の社会をめざす運動」新潟教区委員会 広報部会  
 〒940-2402  
 新潟県長岡市与板町与板乙 4356 本願寺新潟別院内  
 TEL : 0258-72-2120  
 FAX : 0258-72-2536

新潟教区・本願寺新潟別院 親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要  
 並びに別院再建二〇年記念法要

新潟教区・本願寺新潟別院「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要並びに新潟別院再建二〇年記念法要」(以下慶讃法要)が二〇二二(令和四)年十月二十二日(土)・二十三日(日)の両日に渡って、本願寺新潟別院本堂で営まれました。

教区内の七組が二日間に分かれて参拝し、水岡賢士輪番を導師にこの度新しく制定されました「新制御本典作法」をお勤めいたしました。(写真中央下)

参拝者は僧侶、門信徒合わせて、二十二日が百四十三名、二十三日が百十二名、両日合わせて二百五十五名に参拝いただきました。両日とも法要に先立ち、帰敬式が執り行われました。

御手代と本願寺式務部職員におかみそり  
 にご出向いただき、二日間

で二十三名が御剃刀を受けられました。また、代表者に法名拝受と帰敬文拝読をしていただき、受式者は阿弥陀様の御前で思いを新たにいたしました。

法要でお勤めした「新制御本典作法」では、正信偈部分を新たに制定された和讃譜という節を依用してお勤めいたしました。始めは聞き慣れてないせいか、お唱えする方は少なかつたですが、徐々に



お唱えする参拝者も増えていき、今までとは違った雰囲気味わわせていただきました。

法要後は、特命布教講師の奥野寛暢さん(富山教区富山南組妙行寺)からご法話をいただきました。奥野さんの軽快で少し笑いもありながらの味わい深いご法話に、参拝の方々は真剣に耳を傾けてご聴聞していました。

法話の後は、記念行事として、「笛人」本宮宏美さんによるフルートコンサートが開催されました。(写真下)始めに山口百恵さんの「秋桜」の演奏から始まり、慶讃法要の愛唱歌である「みんな花になれ」などを約一時間にわたって演奏されました。二日目も曲目を変更しながら演奏していただき、本宮さんのフルート演奏に参拝者の方も酔いしれていました。



今回の慶讃法要はコロナ禍の世情の中、多くの状況を想定しながら準備を進めてきました。過去には例のない難しい法要となりました。そのような状況下でも、慶讃法要をご修行する事が出来たのは、法要委員会の委員の皆様、各部会員の皆様、前日準備や当日のスタッフ等多くのご協力をいただいた門徒推進員様や教区内御寺院様等多くの方々のおかげです。誠にありがとうございます。今後も教区や別院の活動にご協力いただけますと幸いです。

また、来年の三月二十九日から、五期三十日に渡って本山の慶讃法要の団体参拝が始まります。未だ先の見えないコロナ禍の世情ではありますが、本山で親鸞聖人のご遺徳を偲ぶご勝縁に遇える機会を感謝し、多くの皆様とご参拝できることを楽しみにしております。

# 法話 照らされた私

本願寺派布教使 三条組福勝寺住職 黒田 宙

親鸞聖人は煩惱をもち苦しむものを苦悩の有情と表現されました。苦悩とは苦しみ悩むと書きます。つねに湧いて出てくる欲望に惑わされ、思うようにいかないことを悩み、苦しんでいる姿を言います。そして有情とは、情がある姿を表します。苦悩の有情とは、生きる中で感情によって物事を判断して、そのことによって悩み苦しむものを言っています。苦悩の有情というのは自分が苦しむだけでなく、相手を苦しめることもあるのです。私という人間は自分の経験して来たこと、見てきたことで物事を判断していきます。言い換えるなら自分中心で物事を判断していくということです。それはお悟りからしたら程遠い姿です。正しく物事を見ることができない、見ようともしない姿、自己中心的なものの方と言えるでしょう。

二〇一八年大雪で信越線が止まった事故がありました。中には数百人を超える人が一夜を明かしたと全国ニュースにもなりました。そのことについて取り上げられたのは乗務員や、電車会社の過失についてでした。あるニュースには、次の駅まであと三百メートルなのになぜ停止したままにして、乗客を降ろさなかったのか、そんな事が報道されています。果たしてそれは本当の事なのでしょうか。止まった電車の前後の駅は帯織駅、東光寺駅があります。その駅は都会のように駅員が何人もいて売店がある大きな駅とは言えません。その駅に乗客を下ろせばよかったのかと。果たして、雪の影響で電車が止まるほどなのに、駅が除雪出来ているとは思えません。駅につながる道も除雪が進まず車すら入れない状態だったはずでしょう。そのなかに迎えに行く人で駅が混雑したなら二次被害も出た可能性があります。そんな中で電車に乗っていた男性の発言がその状況をインターネット上に発信して

くれています。そしてそれは批判とは真逆で対応は素晴らしかったとの事でした。

乗務員は一人で除雪作業し、乗客に対しても非常食をくばるなど適切に対応してくれたそうであります。乗客はただ見守る事しかできず、乗客にも疲れはみえたが、それ以上に乗務員は疲れ果てていたそうです。その中で頑張れなどの応援する声もでたそうで、報道されている事とは程遠い内容といえるものでした。

私たちはどれだけ正しく物事をみることが出来ているのだろうか。かくいう私もその場所にいたわけではないし、どれが正しかったのかと判断することは出来ません。しかし、世間にある見方をそのまま信じるのではなく、物事を正しく見ていこうという心がけをしていかなければならないのかも知れません。どこまで言っても自分中心でしか考えることが出来ない私だからこそ、どれだけ当事者の立場にたって考えられるかが大切なのだと言葉から教えられたことではなかったでしょうか。



## 「新制 御本典作法」 研修会

日時 二〇二二（令和四）年八月三十日（火） 十四時～十七時  
 会場 本願寺新潟別院 本堂  
 講師 本願寺式務部法式儀礼専門職 主管 浅井 宣祥さん

本願寺が二〇二二（令和五）年にお迎えする親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要に依用する新たな法要作法として「新制 御本典作法」が制定されました。新潟教区でも慶讃法要で依用をするために八月三十日に「新制 御本典作法」研修会を開催いたしました。慶讃法要に出勤予定の僧侶を中心に、門信徒含めて三十名の参加がありました。（写真左上）

本山から、講師の浅井さんにご出向いただき、御本典作法の出抛や解説をいただきました。浄土真宗本願寺派の声明は元々天台宗の声明がベースとなつて作られていました。これは、親鸞聖人が九歳で得度してから二十九歳までの間、天台宗の総本山である比叡山で修行をしていたことが影響しています。また、本願寺の歴代宗主も天台声明を習いに行くことや、比叡山から講師を派遣してもらい勉強されていた時代がありました。

時代が進む中で本願寺は、独自の声明を確立させていき、大衆唱和へ方針を転換させました。その中で、今回制定された「新制 御本典作法」は昔の声明の要素を取り入れた作法となつていてと浅井さんから解説いただきました。

その後は唱和しながら練習し、初めて聞く節などに苦戦する点なども見られましたが、何度か唱えていくうちに徐々に声も大きくなつていきました。

来年の本山の慶讃法要では「新制 御本典作法」が毎座依用されます。

「新制 御本典作法」の経本は教務所にごございますので、興味のある方はお問い合わせください。



## 本願寺新潟別院記念事業

本願寺新潟別院では、「新潟教区・本願寺新潟別院 親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年並びに別院再建二〇年記念法要」に向けて、記念事業として別院の外壁塗装と照明器具の交換を行ないました。



が、交換後は明るくなったという声を多くいただきました。

今回の記念事業で綺麗になった別院の状態を少しでも長く維持できるように努めてまいりますので、これからも別院の護持発展にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

外壁塗装は本堂や庫裏の下見板や白壁を中心に塗装していき、塗装前と比べて壁の剥離や下見板の劣化がわからなくなるぐらい綺麗になりました。（写真上）

照明器具交換は、本堂や事務所など全ての照明器具をLEDに交換しました。（写真下）これまででは、暗くて会議資料が見えづらい等の声を多くいただいていたという声を多く



## 慶讃法要記念品について

慶讃法要で記念品として配布いたしました、真空ステンレスポトル三〇〇ml（写真左下）の在庫が若干教務所にごございます。

有償頒布をしますのでご希望の方がございましたら教務所までご連絡ください。



# 本願寺新潟別院 報恩講

本年も例年同様六月二十五日～二十七日にかけて本願寺新潟別院報恩講法要をお勤めいたしました。(表左記)

お斎は昨年と同様に中止とし、法要の出勤者は各組へは依頼せず、別院の責任役員と総代に出勤していただきました。ご法話は教区内の布教使にご依頼し、五名の布教使の方にお取次ぎいただきました。

6月25日	日中法要 〔正信念仏偈作法第二種〕 輪番挨拶 法 話：井上 慶永 さん 速夜法要 〔宗祖讃仰作法(音楽法要)〕 法 話：雲林 重正 さん 御伝鈔拝読(上巻) 初夜法要 〔日没礼讃偈〕 法 話：黒田 宙 さん
6月26日	日中法要 〔奉讃大師作法第一種〕 法 話：木曾 隆 さん 速夜法要 〔宗祖讃仰作法(音楽法要)〕 法 話：清水 正朋 さん 御伝抄(下巻) 拝読 初夜法要 〔日没礼讃偈〕 法 話：清水 正朋 さん
6月27日	勤 行 (重誓偈) 法 話：木曾 隆 さん 日中法要 〔正信念仏偈作法第二種〕



新型コロナウイルス感染症の流行から二年以上が経過し、一般社会の方は徐々にではありますがコロナ前の生活に戻りつつある状況となっております。その中で今年は三年ぶりに別院の参道から与板町内にかけて露店が並びました。(写真上)

三年ぶりに帰ってきた露店とだけあって、与板内外の多くの人で参道や町内があふれかえっており、別院の向拝には多くの参拝者の列も出来ました。

# 本願寺新潟別院 謝恩講

十月二十四日に本願寺新潟別院謝恩講法要をお勤めいたしました。(写真中央下) 本年は二十二・二十三日に慶讃法要が営まれたため、一日のみの修行となりました。また、慶讃法要の際に教区内寺院より多くのご協力をいただき、連日の法要となったため、職員のみでの修行とさせていただきます。法要は日中法要の一座で、お斎は中止とし、法話は巻組妙光寺の井上大乗さんにお取次ぎいただきました。(写真左上)

本願寺新潟別院謝恩講は別院建立の際に犠牲になられた方の追悼と別院建立の際に尽力いただいたすべての方へ感謝するための法要です。

旧与板別院建立時に、本堂の普請に取り掛かっていた際、信濃川の対岸からの渡し船が沈み、人夫三十名が犠牲となる事故が起こりました。また、幕末の混乱、戊辰戦争から明治維新と急激な社会変動により、別院建立が



一時中断しました。上棟式の目途も立たぬまま数年の月日が過ぎていく中、門信徒の方々の並々ならぬ熱意と中川正甫氏や倉重忠右衛門氏といった方々が、私財を投げ打ち、別院建立へ尽力し、明治三(一八七〇)年に旧与板別院は完成いたしました。

先人たちの尽力によって護持発展してきた本願寺新潟別院の歴史を次の時代まで紡いでいけるよう努めてまいります。



## 寺院振興対策委員会からのご案内

新潟教区寺院振興対策委員会では、ともしび布教や「離郷門信徒の集い」（ふるさととの会）実施の奨励と、各御寺院様の寺院振興対策についての情報を募集しております。

### ともしび布教

住職不在等の事情により法座開催が困難となっている寺院に、教区布教団員が出講し、その地域門信徒のご法義相続と寺院機能の振興を図る制度です。詳細は新潟教区教務所までお問合せください。

### 「離郷門信徒の集い」（ふるさととの会）

ふるさとを離れて過ごされている門信徒の方々や核家族世帯の子どもや孫が、浄土真宗のみ教えに触れていただくための伝道の場として、本山本願寺、築地本願寺、教務所又は直属寺院を会場にした参集型での開催や、オンラインを用いて開催する集いや会のことです。

二〇二一（令和三）年度宗派の開催実績は築地本願寺が二件、広島別院が二件、札幌別院が一件、オンラインでの開催が一件でした。

教区、組、寺院が対象で会場提供や助成金の交付を行います。開催をご検討の際は各会場に直接お問合せいただくか、新潟教区教務所までご連絡ください。また、開催の情報も募集しておりますので、今年度で開催された組や寺院がございましたら情報提供をお願いいたします。

その他、一般寺院の振興支援（寺院建立や本堂・庫裏の再建等）のための財的支援（貸付・助成）や、各地での寺院振興の事例紹介活動等も行なっております。また、事例紹介については浄土真宗本願寺派ホームページにも掲載されております。

寺院振興についてのご意見・ご相談等ございましたら、気軽に新潟教区教務所までご連絡ください。

(5)

## 巻組 善了寺火災義援金

二〇二二（令和四）年七月一日に発生した火災により、巻組善了寺様の本堂と庫裏の一部が消失する甚大な被害に見舞われました。被害発生の一報を受け、当日に教務所長と教務所職員が善了寺様へ出向し、被害状況の確認とご住職から情報収集を行ない、宗派へ報告いたしました。

七月四日午前には、宗派から池田行信総務がお見舞いに訪れ、教務所長、教務所職員と共に善了寺様の被害状況を確認し、ご住職と現状と今後についての協議をいたしました。

この被害を受けて、七月四日の午後に開催された、新潟教区災害対策委員会から見舞金五万円を善了寺様へ交付と教区で義援金を募ることを決定し、教区内全寺院へご依頼をさせていただきました。



受付期間	2022（令和4）年7月5日 ～8月1日
件数	64件
義援金総額	1,969,851円

教区内外から多くの災害義援金が集まりました。

こちらの義援金は八月五日（金）に水岡賢士教務所長から新田陽淳善了寺住職へ直接お渡しさせていただきました。

ました。（写真中央上）

皆さま、多くのご協力ありがとうございました。

# 寺院巡り

## 地蔵堂組 勝圓寺

しょうえんじ

住所 新潟県燕市熊森二五四一六  
電話 〇二五六九八三〇六九

勝圓寺の創設については、第一世釋了智が一六八二(天和二年)に、熊森の地内に庵いおりを建立したのが開基であると伝えられています。

一六九〇(元禄三年)に本山より御本尊御絵像をいただき、寺号を「勝圓寺」と公称の許可を賜り、一七一八(享保三年)に、御本尊御木像をお迎えしたと書物に記録があり、この時に本堂・庫裏となる建物が建立されたと思われます。

以来、歴代の住職が勝圓寺の興隆に尽力されて参りましたが、諸般の事情により、二〇〇二(平成十四)年十月に、現在の地への寺基移転が決定し、本堂・庫裏の新築並びに墓地整備の計画が進められました。

二〇〇三(平成十五年)年、先に本堂の新築工事を着工し、二〇〇五(平成十七)年に完成し、同年七月に新本堂に御本尊をお移しする「御遷仏法要」を修行いたしました。同年続いて庫裏の新築工事を着工し、二〇〇六(平成十八)年に完成し、同年五月に本堂・庫裏新築落成慶讃法要を修行いたしました。その間、墓地の整備も進められ、現在に至っております。



↑ 竣工当時の本堂・庫裏 (2006年5月撮影)

寺基移転の大事業にご尽力いただいた皆様の思いをしつかりと受け止め、勝圓寺の更なる継続・発展のため、お念仏のみ教えを通して、ご門徒や地域の皆様方と深い信頼関係を築き、皆様と共に寺院活動の推進に取り組んで参りたいと思えます。

### 教務所・別院からのお知らせ(会場記載がないものは新潟別院で行います)

#### 十二月〜三月行事予定

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止や延期となる場合がございます。ご確認のうえ、お申込み・ご参加ください。

#### ▽寺中寺院研修会

日 時 十二月七日 十三時三十分〜

ご講師 高岡教区 林 史樹さん

#### ▽教務所長権限と責任領域の拡大にかかる説明会

日 時 十二月八日 十五時〜

#### ▽平和を誓う念仏者のつどい

日 時 十二月九日 十三時三十分〜

講演 「沖縄の基地問題」〜加害者は誰なのか〜

ご講師 新潟県立大学 准教授 福本 圭介さん

#### ▽除夜会

日 時 十二月三十一日 二十時三十分〜

#### ▽元旦会

日 時 一月一日 七時〜

#### ▽常例法座

日 時 三月九日 十時三十分〜

ご講師 国府教区 長井 順一さん

#### 教師

▽五月二十七日 巻組 西永寺 日野 慎人さん (釋得淨)

▽五月二十五日 巻組 西永寺 日野 阜次朗さん (釋慶心)

▽六月十五日 元上組 専徳寺 佐々木 ナオミさん (釋尚弥)

▽六月十五日 巻組 教願寺 頓所 自然さん (釋自然)

広報部会では教区報とホームページについてのご意見・ご感想を募集しています。「意見」「感想」等ある方は新潟教区教務所へ電話やメール等にてご連絡ください。よろしく願います。

